



# 学薬のひろば



Vol. 017

昨年12月5日、名古屋国際会議場において第37回東海薬剤師学術大会が“いのちと薬剤師 ～医療人としての原点を考える～”をテーマに開催され多数の先生方の参加を得ることができました。

学薬として研究発表（口頭）2題、ポスター4題を発表させて頂きましたが2月6日（豊橋）、13日（名古屋）の学薬講習会においても発表・掲示する予定であります。東海薬では時間の都合でお聞きになれなかったあるいは見ることができなかった先生方には是非この講習会を利用していただきたいと思っております。



また、今回特別講師としてお迎えする村松先生は“詳解 学校環境衛生の基準”の著者のお一人でもあります、日頃疑問に思ってみえることがありましたらどうぞ遠慮無くご質問してください。

さて、“薬学生教育6年制”に向けて各方面から様々な意見・取り組みがなされはじめています。しかし“これからの薬剤師に求められるもの”は特に“これまでの薬剤師にも求められるもの”であって、すべての薬剤師が持つことが望まれるものでもあるはずで、1つの考えとして薬剤師は“くすり”は知っていても、医療人としては圧倒的に“人や病気”を知らない、つまりは実際の現場を知らないといえるのではないのでしょうか。薬剤師は患者と病気やその治療、くすりの効果・副作用などについて実際にコミュニケーションし、カウンセリングできる能力をもっともっと養って顔が見える薬剤師像を作り上げていく必要があると思われま。病気について実際に理解を深める（チーム医療）と同時に、こうした医療心理学的手法についても全ての薬剤師が学ぶことが重要なのです。患者の話聞き、患者の抱えるところの問題がわかるにしたがい、起きている障害と、解決を阻む問題点が見えてきます。患者自身が問題が整理されることにより自分で行動を変えていくこともあり、何も変わらなくても納得する場合もあり、また、第三者が問題解決に働く場合もあり得ます。こうした医療の場における心理臨床家として必要な専門知識と技術の一部でも勉強していくことが薬剤師にも必要なのではないのでしょうか。

そういった意味で医療現場と学校で場所は違いますが樋口先生が進める「学校へ出かけてくすりのお話をしよう」という取り組みは今までの薬剤師にはなかった現場重視の取り組みといえるのではないのでしょうか。

学校で子供たちの前で話をする、そのためにはどういった準備をする必要があるのか？ましてや人に教える、理解してもらうのは簡単なことではありません。し

かし、教育心理学的手法と医療心理学的手法に共通するものも多いはずでやり甲斐は十分にあるのではないのでしょうか。

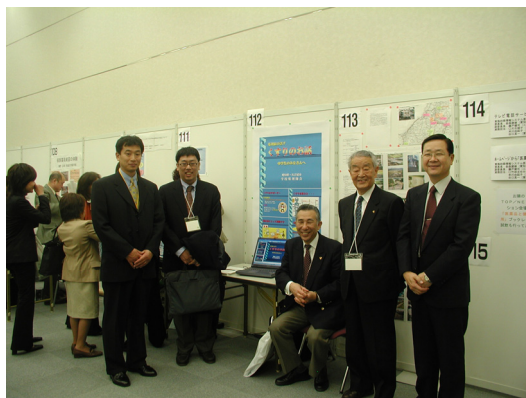
県学薬として今回、授業に使用するCDとテキストを用意させて頂き講習会で配布させていただく予定です。これを参考に当日、樋口先生の熱意を会場で感じ取っていただき実際にお話ができるよう努力して頂きたいと思います。

薬剤師が話す「くすりのお話」

## 今、何故薬剤師が学校へ出向くのか！？

愛知県学校薬剤師会理事 樋口光司

現在の日本では、規制緩和(?)の波が大きいうねっています。多くの医薬品が部外品に名前を変え、コンビニ等で売られるようになりました。昨日まで医薬品だったものが小学生でも手軽にいくらかでも買える時代であり、その種類がさらに増えそうな勢いです。政府はセルフメディケーションと称して、軽い初期治療では自分で薬を買うなどして、自分の責任において管理、対処することを薦めています。しかしその一方で、薬に関する知識や情報を義務教育のカリキュラム等にも含めず、国民に十分な情報提供をしているとはいえないのが実情です。明らかに片手落ちと言わざるをえません。



最近、新聞紙上で親の子殺し、子の親殺し等の事件が全国的に散見されます。非常に重い罪でもあり身の毛もよだつ事件です。その理由が学校へ行かない、仕事をしない、携帯電話ばかりかけているなどで、その注意の仕方が気に入らないとか、とても死をもって解決しなければならないような問題とは思えません。11歳の女の子が友達だった子を教室で惨殺するなど、本当に痛ましい事件もありました。日本人の多くがうつ状態とか神経衰弱、精神的な問題を抱えているようにさえ思われます。こうした環境にある社会の中に生きる一員として、事態を真剣に受け止め、これ以上悪いことが起こる前に一人一人が出来ることをする。このことがとても大切なことと思います。

私たち学校薬剤師として出来ることは、やはりくすりの専門家である薬剤師ならではの立場から、くすりについて分かり易く児童・生徒に話してあげる。タバコや薬物乱用防止問題についても、ただ危険性を列挙するだけではなく、健全な自尊心(セルフエスティーム)を育むことで、自分自身が大切だから絶対ダメと言えるようにお手伝いをする。自分自身が本当に大切だと思える人は、隣の人も同じように大切に思えることを一緒に考えてみる。こうして学校へ行って「くすりのお話」をしながら、児童・生徒と一緒に考えてみることは、学校薬剤師として、また人として「生きがい」をも感ずることの出来る素晴らしい仕事と思います。

是非、愛知県・名古屋市学校薬剤師会が準備した、薬剤師が話す「くすりのお話」のマニュアルをご活用下さい。

平成16年度

## 愛知県学校薬剤師講習会

- 主催 愛知県学校薬剤師会  
共催 愛知県教育委員会 愛知県学校保健会 愛知県立高等学校学校保健会  
名古屋市教育委員会
- 日時 ① 平成17年2月 6日(日)・・・三河会場  
② 平成17年2月13日(日)・・・尾張会場  
午後12時40分より (受付:12時10分～)  
※ 受講料不要 研修受講シール:2単位
- 場所 ① 豊橋市民センター(カリオンビル) 6階 多目的ホール  
〒440-0897 豊橋市松葉町2-63  
TEL 0532-56-5141  
② 東建本社丸の内ビル 3階 東建ホール  
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2丁目1番33号  
TEL 052-232-8000
- 日程
- 受付 12:10～  
開会挨拶 12:40～  
講義Ⅰ 12:45～  
① 「天然物由来の色素を用いた脂肪性残留物検査法」  
講師:名古屋市学校薬剤師会 理事 寺島 健二  
② 「教室内のHCHO濃度の変動と換気」  
講師:愛知県学校薬剤師会 理事 木全 勝彦
- 講義Ⅱ 13:00～  
① 講師:蒲郡市立形原北小学校 養護教諭 堀井 道子  
② 講師:愛知県立豊田北高等学校 養護教諭 深見 真弓
- 講義Ⅲ 13:45～  
① 「学校環境衛生の基準の改正点について」  
講師:愛知県教育委員会健康学習課 主査 大島 雄二  
② 「学校環境衛生の基準の改正点について」  
講師:日本学校薬剤師会常務理事 村松 學
- 講義Ⅳ 15:15～ (豊橋会場のみ)  
① 「教室内のHCHO濃度の変動と換気」  
講師:愛知県学校薬剤師会 理事 木全 勝彦
- 講義Ⅴ 15:30～  
「薬剤師が話す くすりのお話」  
講師:愛知県学校薬剤師会 理事 樋口 光司  
愛知県薬剤師会学校薬剤師部会 部員 山口 一丸
- 閉会挨拶 16:15

※ ②の尾張会場については**バインダー本**を御持参ください。